

今年是不安定なお天気が続きましたが、まだまだ残暑の厳しい日がありそうですね。これからは朝晩の気温差があり、夏の疲れが出てくる時期なので、まずはゆっくり休むことが大切です。早めに就寝して疲れをとり、朝ごはんをしっかり食べて、元気に遊べるといいですね♪



十五夜とは旧暦の8月15日(現在の新暦9月15日)前後に訪れる満月の日の事をそのように呼びます。

2021年の十五夜(中秋の名月)は、9月21日です。
「満ち欠けする月の様子」や「作物が月の満ち欠けとともに成長する」ことから、

- ★収穫
- ★ものごとの結実
- ★祖先とのつながり



を連想し、それぞれに感謝し祈るようになったのが十五夜です。

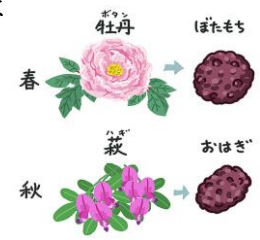
今月の二十四節気

【白露】はくろ:9月7日
秋が深まり、草花に朝露がつきはじめる頃という意味です。空は高くなり、秋雲がたなびくようになり、本格的な秋の到来です。また、実りの秋を前に台風が心配な時期でもあります。

【秋分】しゅうぶん:9月23日
昼夜の長さがほぼ同じになる日で、この日を境に日が短くなり、秋の夜長に向かいます。秋分の日には彼岸の中日で前後3日間を秋彼岸といい、先祖のお墓参りをする習慣があります。「祖先を敬い、亡くなった人をしのぶ日」として国民の祝日になっています。

どうしてお彼岸ではおはぎを食べるの？

お彼岸におはぎをお供えするようになった理由は諸説ありますが、そのひとつとして、小豆の赤は邪気を払う効果があると言われています。さらに、昔は貴重であった砂糖を使うおはぎをご先祖様にお供えすることで、感謝の気持ちを伝えることに繋がります。



おはぎは牡丹餅(ぼたもち)と呼ばれることもあります。その理由も諸説ありますが、一般的には彼岸の季節によって違いがあり、春は春に咲く牡丹にちなんで「ぼたもち」。秋は秋に咲く萩にちなんで「おはぎ」と言うそうです。近年では、季節を問わず「おはぎ」と言われることが多いようです。

当園では、きなこを使ったおはぎを9月24日提供する予定です！